日本工学	院八王子専門]学校 ———	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	品質管理		
斗目基礎性	情報					•			
開設学科	応用生物学科			コース名				開設期	前期
付象年次	2年次	2年次		科目区分	選択			時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義				
数科書/教材	オ 品質管理検尿	定3級テキス	スト&問題第	集(成美堂)	出版)			•	
旦当教員	情報								
担当教員	森内 寛					実務経験の	有無・職種	無	
学習目的	L					ı		<u> </u>	
どの品質管		きるだけの知	1識と実践に	ついて学ぶ事	事を目的とする	る。品質管理			こ着け、実際の医薬品会社・食品会 着けるだけではなく、社会におけ?
			び3級ダブル	合格を目標の	とし、応用生	物学科におけ	る各実験実習	で実際に活用	用することで実践できるスキルとし
∤に着ける	事を目標としま	ます。							
教育方法等	等								
授業概要	9月に予定され					っておくべき品	計質管理的考え	方、手法を	学びます。
	財団法人 日本規格協会主催の品質管理検定4級及び3級を実際に受験してもらう(別途、受験料が必要)。 また、品質管理の考え方は社会人としての基礎素養として重要とされるので試験合格だけに集中することなく、 内容を理解して、しっかりと身につける事。さらに、資格試験とは別に学科での試験も行うが、授業時数の4分の3以上出席しない者は短期試験を受験することができない。								
注意点	また、品質管内容を理解し	理の考え方 て、しっか	は社会人とし りと身につい	ての基礎素	養として重要	きとされるので	ご試験合格だけ	に集中する	ことなく、
注意点	また、品質管内容を理解し	理の考え方 て、しっか することが 割合	は社会人とし りと身につけ できない。	っての基礎素 ける事。さら	養として重要に、資格試験	さられるので 後とは別に学利	ご試験合格だけ	に集中する	ことなく、
評	また、品質管 内容を理解し 期試験を受験 種別 試験・課題	理の考え方 て、しっか することが 割合 80%	は社会人とし りと身につい できない。 授業内容の	ての基礎素 ける事。さら)理解度を確	養として重要 に、資格試験 筆認するため	をされるので 食とは別に学科 に実施する	で試験合格だけ	に集中する	ことなく、
評価	また、品質管 内容を理解し 期試験を受験 種別 試験・課題 小テスト	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10%	は社会人としりと身についできない。 授業内容の	での基礎素 ける事。さら の理解度を確 の理解度を確	養として重要に、資格試験 に、資格試験 筆認するため 筆認するため	さされるので 後とは別に学系 に実施する に実施する	で試験合格だけ 斗での試験も行 備 考	に集中する	ことなく、
評	また、品質管 内容を理解し 期試験を受験 種別 試験・課題	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10%	は社会人としりと身についできない。 授業内容の	での基礎素 ける事。さら の理解度を確 の理解度を確	養として重要に、資格試験 に、資格試験 筆認するため 筆認するため	をされるので 食とは別に学科 に実施する	で試験合格だけ 斗での試験も行 備 考	に集中する	ことなく、
評価方法	また、品質管 内容を理解し 期試験を受験 種別 試験・課題 小テスト	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10% 10%	は社会人としりと身についできない。 授業内容の	での基礎素 ける事。さら の理解度を確 の理解度を確	養として重要に、資格試験 に、資格試験 筆認するため 筆認するため	さされるので 後とは別に学系 に実施する に実施する	で試験合格だけ 斗での試験も行 備 考	に集中する	ことなく、
評価方法	また、品質管 内容を理解し 期試験を受験 種別 試験・課題 小テスト 平常点	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10% 10%	は社会人としりと身についできない。 授業内容の	での基礎素 ける事。さら の理解度を確 の理解度を確	養として重要に、資格試験 に、資格試験 筆認するため 筆認するため	さされるので 後とは別に学系 に実施する に実施する	で試験合格だけ 斗での試験も行 備 考	に集中するうが、授業	ことなく、
評価方法受業計画	また、品質管 内容を理解し 期試験を受験 種別 試験・課題 小テスト 平常点	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10% 10%	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な授	ての基礎素 ける事。さら)理解度を確)理解度を確 受業参加度、	養として重要に、資格試験 で記するため で記するため 授業態度に	とされるので 食とは別に学系 に実施する に実施する よって評価	で試験合格だけ 中での試験も行 備 考	に集中する。うが、授業	ことなく、
評価方法	また、品質管 内容を理解し 期試験を受験 種別 試験・課題 小テスト 平常点	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10% 10% 授業内容 方・まとめ	は社会人としいと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な授	ての基礎素 さら 理解度を確 理解度を確 受業参加度、	養として重要に、資格試験 定認するため で認するため 授業態度に 扱うデータの	とされるので 食とは別に学系 に実施する に実施する よって評価	r 試験合格だけ 中での試験も行 備 考 する 各回の至 い方について理	に集中する。うが、授業	ことなく、
評価方法 受業計画 1 回 2 回	また、品質管 内容を理解し 期試験を受験 種別 試験・課題 小テスト 平常点	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10% 10% 授業内容 方・まとめ とその活用方	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	たの基礎素 する事。さら の理解度を確 の理解度を確 受業参加度、 品質管理で QC七つ道』	養として重要に、資格試験 企業認するため でである。 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格試験 では、資格式 では、資格 では、資格 では、資格 では、資格 では、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の	とされるので 食とは別に学系 に実施する に実施する よって評価	r 試験合格だけ 中での試験も行 備 考 する 各回の至 い方について理	に集中するうが、授業	ことなく、
評価方法 受業計画 1回 2回 3回	また、品質管 内容を理解し 期試験を受験 種別 試験・課題 小テスト 平常点 (1回~8回) データの取り QC七つ道具と	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10% 10% 大・まとめ たその活用だ	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	での基礎素 する事。さら 理解度を確 理解度を確 受業参加度、 品質管理で QC七つ道 新QC七つ道	養として重要に、資格試験 主認するため 主認するため 授業態度に 扱うデータの 具それぞれの 首具それぞれの	とされるので 会とは別に学利 に実施する に実施する よって評価 の種類や取扱い 特徴と利用方 の特徴と利用	で試験合格だけ 対での試験も行 備 考 する 各回の到い方について理 法を理解する	に集中するうが、授業	ことなく、
評価方法 受業計画 1 回 2 回 3 回 4 回	また、品質管 内容を理解し 期試験を受験 種別 試験・課題 小テスト 平常点 (1回~8回) データの取り QC七つ道具と 新QC七つ道具	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10% 10% 大・まとめ たその活用だ	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	での基礎素 はる事。さら の理解度を確 の理解度を確 の理解度を確 の理解度を確 のででである。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	養として重要に、資格試験 に、資格試験 電認するため 授業態度に 扱うデータの 具それぞれの特 負具それぞれの 使用する正規	とされるので 会とは別に学利 に実施する に実施する よって評価 の種類や取扱い 特徴と利用方 の特徴と利用	で試験合格だけ 対での試験も行 備 考 する 各回の至 、方について理 法を理解する 方法を理解する 分布について理	に集中するうが、授業	ことなく、
評価方法 受業計画 1回 2回 3回 4回 5回	また、品質管内容を理解し期試験・課題 小テスト 平常点 (1回~8回) データの取り QC七つつ道具と新QC七つ道具と統計的方法の	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10% 10% 方・まとあ たその活用だ 具とその活用 基礎	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	での基礎素を での基礎素 であ事。さら の理解度を確 理解度を確 要業参加度、 品質管理で のでしてつ道 に関管理で に関管理で に関管理で に関でで に関でで に関でで に関でで に関でで に関でで に関でで に関でで に関でで に関でで に関いて に関い に関いて に関いて に関いて に関いて に関いて に関いて に関いて に関いて に関いて に に に に に に に に に に に に に	養として重要 に、資格試験 理認するため 理認するため 授業態度に 扱うデータの 具それぞれの 使用する正規 類や見方、代	とされるので 食とは別に学系 に実施する に実施する よって評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	で試験合格だけ 対での試験も行 備 考 する 各回の至 法を理解する 方法を理解する 方法を理解する 方法でついて理	に集中するうが、授業別達目標解する	ことなく、
評価方法 授業計画 日 1 日 2 日 3 日 4 日 5 日 6 日 6 日 6 日	また、品質質 人 内	理の考え方 て、しっか することが 割合 80% 10% 10% 方・まとあ たその活用だ 具とその活用 基礎	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	での基礎素 での基礎素 では では では では では では では では では では	養として重要に、資格試験 に、資格試験 建認するため 投業態度に 扱うデータの 具それぞれの特 負具それぞれの 使用する正規 類や見方、作 数の算出方法	をとされるので 会とは別に学系 に実施する に実施する よって評価 の種類や取扱い 特徴と利用方 の特徴と利用 引分布や確率分 手り方について まや判断基準に	で試験合格だけ 対での試験も行 備 考 する 各回の至い方について理解する 方法を理解する 方法を理解する での話を理解する でので理解する でので理解する でので理解する	に集中するうが、授業別達目標解する	ことなく、
評価方法 授業計画 回 1 回 2 回 3 回 4 回 5 回 6 回 7 回	また、お田野 (1回~8回) (1回~8回) が (1回~8回) データのの 道 美 (1回~8回) で (1回~8回) が (理の考え方かいますることが 割合 80% 10% 10% 大・まとめ、 たその活用だ 基礎	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	での基礎素を の基礎素 の事。さら の理解度を確確 文業参加度、 品質管理で のCとしてで 管理図のの指 相関係数の	養として重要 に、資格試験 ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	とされるので 会とは別に学系 に実施する に実施する に実施する よって評価 が種類や取扱い 特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方	で試験合格だけれての試験も行体を表する 各回の登りを理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する	に集中するうが、授業別達目標解する	ことなく、
評価方法 授業計画 回 1 回 2 回 3 回 4 回 5 回 6 回 7 回	また、品質質 人 内	理の考え方かいますることが 割合 80% 10% 10% 大・まとめ、 たその活用だ 基礎	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	での基礎素を の基礎素 の事。さら の理解度を確確 文業参加度、 品質管理で のCとしてで 管理図のの指 相関係数の	養として重要 に、資格試験 ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	をとされるので 会とは別に学系 に実施する に実施する よって評価 の種類や取扱い 特徴と利用方 の特徴と利用 引分布や確率分 手り方について まや判断基準に	で試験合格だけれての試験も行体を表する 各回の登りを理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する	に集中するうが、授業別達目標解する	ことなく、
価 方 法	また、お田野 (1回~8回) (1回~8回) が (1回~8回) データのの 道 美 (1回~8回) で (1回~8回) が (理の考え方かいますることが 割合 80% 10% 10% 大・まとめ、 たその活用だ 基礎	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	での基礎素を の基礎素 の事。さら の理解度を確確 文業参加度、 品質管理で のCとしてで 管理図のの指 相関係数の	養として重要 に、資格試験 ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	とされるので 会とは別に学系 に実施する に実施する に実施する よって評価 が種類や取扱い 特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方	で試験合格だけれての試験も行体を表する 各回の登りを理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する	に集中するうが、授業別達目標解する	ことなく、
評価方法 授業計画 日 1 回 2 回 3 回 4 回 5 回 6 回 7 回	また、お田野 (1回~8回) (1回~8回) が (1回~8回) データのの 道 美 (1回~8回) で (1回~8回) が (理の考え方かいますることが 割合 80% 10% 10% 大・まとめ、 たその活用だ 基礎	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	での基礎素を の基礎素 の事。さら の理解度を確確 文業参加度、 品質管理で のCとしてで 管理図のの指 相関係数の	養として重要 に、資格試験 ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	とされるので 会とは別に学系 に実施する に実施する に実施する よって評価 が種類や取扱い 特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方	で試験合格だけれての試験も行体を表する 各回の登りを理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する	に集中するうが、授業別達目標解する	ことなく、
評価方法 授業計画 回 1 回 2 回 3 回 4 回 5 回 6 回 7 回	また、お田野 (1回~8回) (1回~8回) が (1回~8回) データのの 道 美 (1回~8回) で (1回~8回) が (理の考え方かいますることが 割合 80% 10% 10% 大・まとめ、 たその活用だ 基礎	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	での基礎素を の基礎素 の事。さら の理解度を確確 文業参加度、 品質管理で のCとしてで 管理図のの指 相関係数の	養として重要 に、資格試験 ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	とされるので 会とは別に学系 に実施する に実施する に実施する よって評価 が種類や取扱い 特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方	で試験合格だけれての試験も行体を表する 各回の登りを理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する	に集中するうが、授業別達目標解する	ことなく、
評価方法 受業計画 回 1 回 2 回 3 回 4 回 5 回 6 回 7 回	また、お田野 (1回~8回) (1回~8回) が (1回~8回) データのの 道 美 (1回~8回) で (1回~8回) が (理の考え方かいますることが 割合 80% 10% 10% 大・まとめ、 たその活用だ 基礎	は社会人としりと身についてきない。 授業内容の授業内容の積極的な投	での基礎素を の基礎素 の事。さら の理解度を確確 文業参加度、 品質管理で のCとしてで 管理図のの指 相関係数の	養として重要 に、資格試験 ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	とされるので 会とは別に学系 に実施する に実施する に実施する よって評価 が種類や取扱い 特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方 の特徴と利用方	で試験合格だけれての試験も行体を表する 各回の登りを理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する を理解する	に集中するうが、授業別達目標解する	ことなく、